

# レポートの書き方（初級編）

後藤忠徳

学生のみなさん、レポートを書くのは好きですか？得意ですか？ここでは学生のみなさんがレポートを上手に書けるように、レポートを書くときのちょっとしたコツをまとめてみました。これに従ってレポートを仕上げてください。考えてみれば（テストを除いて）他人に見せる文章を書くチャンスは、今までに何度あったでしょう？でもこれからは授業のレポート、卒業論文などに加えて就職活動のエントリーシートや履歴書など、他人に見せる文章を書かないといけない状況が増えます。まずはレポートのイロハをマスターしましょう！

今回は「あるテーマに沿って、資料を調べてまとめなさい」というレポートの書き方です。大事なことを最初に書きますと、次の3点でレポートは見違えるほどよくなります。

- 1) なぜその資料を取り上げることにしたか、動機をはじめに書く
- 2) 資料からの文章と、自分なりの意見をごっちゃ混ぜにしない
- 3) 最後に自分なりの感想を記す。

1についてはすぐできます。最初の段落にこう書けばよいです。「今回のテーマ○○○○に関して、私は××に興味がありますので、△△に関してまとめることにしました」こうすると、「お、積極的にレポートに臨んでいるな！」と先生が思うこと間違いなしです。3も同様に簡単です。レポート最後の段落で「以上のように△△に関して調査したところ、□□であった。このことから私は××については○○ではないかを感じるようになった。今後は□□についてまた調べてみたいと思う」のようにすればよいでしょう。

2については、良い例と悪い例を示しましょう。まずは悪い例から。

○○は××で△△である。また○○は××で△△である。なので●●は■●だ  
と思う。

#### 引用文献

笠谷貴史・後藤忠徳・高木亮, 海洋における地殻構造探査のための電磁場観測技術とその動向,  
物理探査, 59, 585-594, 2006.

後藤忠徳・桜井紀旭・高木亮・笠谷貴史, 海底電磁探査の近年の進歩とメタンハイドレート検  
出への適用, 地学雑誌, 118, 935-954, 2009.

これではどこからどこまでが「後藤ほか, 2009」に基づいた内容で、どの部分が「笠谷ほか, 2006」による内容かわかりません。なぜ分かりにくいかというと、他人の文章を自分の文章内で紹介するやり方＝引用方法がダメなのです。それでは良い例を示しましょう。

○○は××で△△である（後藤ほか, 2009）。また笠谷ほか(2006)によれば、○  
○は××で△△である。以上のことから、私は●●は■ ■であると考える。



図：後藤ほか(2009), XX ページより引用

#### 引用文献

笠谷貴史・後藤忠徳・高木亮, 海洋における地殻構造探査のための電磁場観測技術とその動向,  
物理探査, 59, 585-594, 2006.

後藤忠徳・桜井紀旭・高木亮・笠谷貴史, 海底電磁探査の近年の進歩とメタンハイドレート検  
出への適用, 地学雑誌, 118, 935-954, 2009.

こうすれば、どの部分がどの資料に基づくか分かりやすいですね。また1つの資料からでは  
なく、2つ以上の資料から必要な部分だけをまとめてレポート化すると、先生から「コピペ  
レポートじゃないか！」とは言われにくくなります。さらに適宜、図なども引用すると分か  
りやすく（またレポートの余白も埋められて？）効果的です。

最後に引用文献の書き方を伝授します（末尾の例もみてね！）。本の一部を参考にした場  
合は“本の著者名（複数名いる場合は名前と名前を・で区切る）、書名、総ページ数（XX  
pp.と書きます。引用した部分だけの場合は p.XX-YY と書きます）、出版社、出版年.”とし  
ます。最後にピリオドを打ちます。またホームページの場合は“ホームページの作者（不明  
の場合は省略可）、ホームページのタイトル、アドレス、アクセスした日.”とします。最後  
にピリオドを打ちます。その他、種々の文献の引用方法は例えば物理探査学会(2010)を参考  
にしてください。また引用文献はアルファベット順か引用した順に並べなおして、レポート  
末尾にまとめて記します。

以上の3点を守れば、ずっと上手にレポートを書けると思います。ぜひ実行してみてください。  
また木下(1981)および外岡(2006)はレポート作成の参考になりますので一読をお薦め  
します。あとたまに！油で汚れたレポート、書きなぐりの雑な文字、名前や学籍番号書き忘  
れ、ホッチキスで止めてないバラバラレポート、、、レポートは自分自身の身代わりです。  
丁寧にな。そして「課題名」「学籍番号」「氏名」はレポート冒頭の目立つところに書こう！

#### 引用文献

木下是雄, 理科系の作文技術, 中央公論新社, 244 pp., 1981.

外岡秀俊, 情報のさばき方—新聞記者の実戦ヒント, 295pp., 朝日新聞社, 2006.

物理探査学会, “物理探査” 投稿細則 付録 D 文献の記載例,

[http://www.segj.org/report/docs/ref\\_format.html](http://www.segj.org/report/docs/ref_format.html), 2010年11月1日にアクセス.

※上記がリンク切れの場合は、[http://obem.jpn.org/files/edu/Appendix\\_D\\_Examples.pdf](http://obem.jpn.org/files/edu/Appendix_D_Examples.pdf)

またホームページの引用は、[http://obem.jpn.org/files/edu/Appendix\\_F\\_RefHP.pdf](http://obem.jpn.org/files/edu/Appendix_F_RefHP.pdf)